

## 18 道風公顕彰活動と書道教育

小野道風公は、この松河戸の里で生まれたとされています。

そして、古くから里人は、それを誇りとしてきました。

先人たちが築き上げてきた道風公顕彰活動と書道教育の歩みを振り返り、松河戸の文化遺産を後世に広く伝えていきます。

- (1) 道風公の顕彰活動 ..... p396
  - ① 戦前の顕彰活動、 ② 戦後の顕彰活動、
  - ③ 小野道風公遺跡保存会、 ④ 小野道風顕彰活動・事業の年表
- (2) 道風祭 ..... p403
  - ① 道風祭(通常の年の道風祭)、 ② 道風祭(特別記念行事)
  - ③ 野外大揮毫大会
- (3) 道風展 ..... p412
- (4) 県下児童生徒席上揮毫大会 ..... p415
- (5) 教育書写の変遷 ..... p417
- (6) 平安朝行列初年度 第9回春日井まつり ..... p419
- (7) 小野社の移転 ..... p421
  - ① 小野小学校の奉安殿の小野社への移転、
  - ② 移転に伴う問題
  - ③ 区画整理に伴う小野社の移転工事



松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## (1) 道風公の顕彰活動

### ① 戦前の顕彰活動

松河戸は道風ゆかりの地であり、昔から書を競う会が盛んで能筆の人が多くいました。

誕生地と伝えられる現在の松河戸町の屋敷跡には、尾張藩の儒学者である秦鼎(はたかなえ) (1761~1831) 撰文の「小野朝臣(道風)遺跡之碑」が文化12年(1815)に建てられ、

「松河戸の村民はみな道風がここで生まれたということを伝えている」という内容が刻されています。

大正4年(1915)に、愛知県より「小野道風公誕生地」の石碑が建てられました。

この間、松河戸の青年団も大きな役割を果たしました。

明治25年に「青年道德会」として発足し、大正中頃より「道風青年会」と呼ばれるようになりました。

村の伝統的な行事を受け持つことが多くなるとともに、弁論、書道の研修、運動に力を入れるようになり、松河戸区の「道風青年会」と下条区の「戊申青年会」の間では書を競う大会が開かれて、その間に青年会場も建設されています。



▲大正15年の道風祭に集まった人びと(観音寺)☆



表面の銘板	表面の銘板
立像 寄附主 勝川 山口悦太郎 基座 遺跡保存会 敷地埋立其他 村方檀徒一同 昭和四年四月当山十一世 道代 雲岳作	「小野道風朝臣之像」 「藤景福故事」



小野朝臣(道風)遺跡之碑  
小野社の社殿はまだない 昭和6年



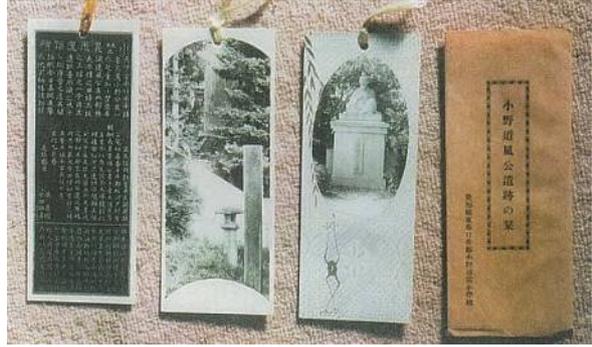
東方面から見た所

小野道風公立像  
昭和4年9月15日  
竣工当時 観音寺山門前  
下図 裏面の銘板

資料 保存と顕彰の歩み 松河戸誌研究会から

また、この頃には今の競書会の前身に当たるような生徒の書会も観音寺で開かれていました。

顕彰活動の原点は、青柳堂主人澤井桂堂氏が漢詩人の浅野醒堂翁より、「青柳堂は小野道風公と因縁深き堂号であることから、郷土か生んだ書聖を顕彰する事業を行うべき」との言葉を受けたことに始まります。



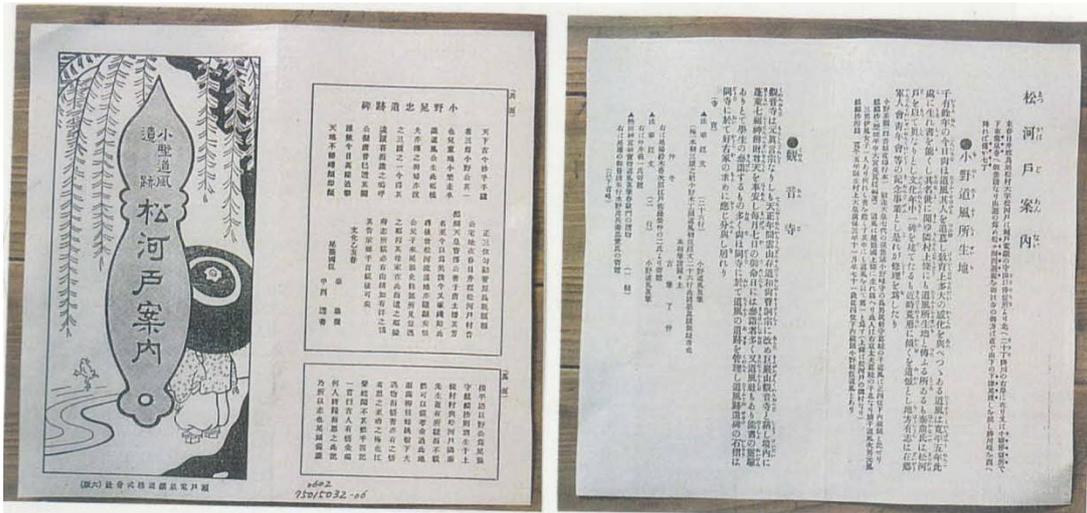
松河戸の案内しおり

澤井氏は、道風顕彰活動は自分の責務と誓い、自らが発起人となって「道風公出産地保存会」を設立しました。

その趣意書には、松河戸に道風公関連施設の建設、道風公の命日に祭典を行い、書道展覧会や講演会を開催することなどを会の目的とすることが記されています。

【参照 下記、道風公出産地保存会趣意書】

このことを受け、昭和4年9月に観音寺山門前の小野道風公のコンクリート立像の除幕式が行われ、松河戸を紹介するパンフレット、しおり、絵葉書なども作られ、顕彰活動が盛んに行われました。



松河戸の案内パンフレット 顕彰活動の大正から昭和にかけて、顕彰活動に力を入れていた様子がよく分かる。

### 保存会趣意書（昭和初期）

道風公出産地保存会趣意書

諸先生方の隆情厚意を蒙り  
大方各位の御入会を懇請す

尾瀬東春日井郡島形村松川戸鎮守寺は、皇朝書道の祖神小野道風朝野の出産地なれども、地籍紛糾に於て表裏不便なれば、従来識者人少なかりしが、過故渡野醒堂先生に、余に告げて曰く、青柳堂と公とは深き因縁を有するを以て、是非共謀方して此隠れたる聖地を世に紹介し、且つ従来一小記念碑のみ存する外何物も無きを以て、奉職者の愚弄の目標となるべき聖堂を建設しては、その稱言に依り茲に大いに力を盡すべしと發願したるものなり。想ふに道風公は本邦書道の祖にして、書を學ぶと學ばざるにと拘らず之れを崇敬する事は吾人後輩の徳義にして、此隠れたる史蹟を世に出す事は實に有義の事と信ず、幸に多數諸賢の御賛同を仰ぎ、本會の目的を達せしめらるん事を

目的及方法

- 一、道風公聖堂を松川戸鎮守寺境内に建築する事
- 二、毎年十一月十二日（道風公薨去の日）に祭典を舉行する事
- 三、祭典の當日神事を經ならしむる爲め左の儀をなす事
  - (一)書道展覧會
  - (二)讀經展覧會
- 四、本會の資金は全國書道大家より推賞品の御寄進を請ひ之に當つるものとす。且つ待志家の寄附金を歓迎す
- 五、推賞品の頒付方法は
  - (1)保存會會員の會費一口を一圓とし數口申込まるとも支へべき事とす
  - (2)會費一口に對し推賞品一葉宛を抽籤を以て配當す
  - (3)抽籤期日は以前通知を發する事とす
  - (4)御寄附書以外に額頭、屏風、碑文、條幅、書帖、等の御寄進と懇し會費換金に當つる事あり
- 六、本會には追て左の役員を擁托するものとす
  - 總裁、顧問、會長、會計、理事、主幹、發助員

發起人 青柳堂主人 澤井清次郎

名古屋市中區新町三丁目四  
電話 東一〇三七番

本日迄に御寄進の御承諾を得たる諸先生は即ち左の如し

(愛知縣) 林樂園 原田鳴石 長谷川流石 大橋君川 掛布弓月 武市南風  
 福川益谷 榎川徳谷 野淵繁山 安江五淡 小嶋登洋 淺井南涯 石原陽文  
 橋本邦孝 長谷川圓石 大谷竹舟 加藤香川 吉田天南 谷澤神山 辻雅堂  
 村上福堂 倉尾古岳 山田桂逸 淺野醒堂 天野東勝 淺野松件 村松健夫  
 佐分利山 本寺進堂 石川柳城 大嶋江川 中嶋文溪 中根雅齋 村松健夫  
 藤 早商安 藤村源仙 河村源舟 服部砂州 石田泉城 大井敬軒 鈴木  
 君石 早瀬宗泰 星野秋堂 佐々銀石 武馬鏡泉 大竹泉城 龜山登峯 鈴木  
 曾水 藤田秋徳 砂谷鳳儀 内藤壽清 長谷川松雲 淺井登堂 森  
 野中鶴亭 大岩朝海 (福岡) 米山外堂 (加賀) 長谷川松雲 淺井登堂 青  
 森 堀士進 (神尾) 朝倉貢 (新潟) 谷部佐太夫 吉永武助 成田徳石 數  
 篤堂 (茨城) 栗山鶴堂 (千葉) 根倉竹亭 (福岡) 常永松亭 (香川) 數  
 田中白村 (高知) 竹林鶴堂 前野聖堂 關登堂 (大分) 安部順南 仲香  
 來田口謙堂 田口環 (佐賀) 勝見明彦 關登堂 (大分) 安部順南 仲香  
 (兵庫) 本間重雄 阿部提龍 榎川山 畑長五郎 (京都) 黃松翁 宇都野壽  
 臣 (益田) 玉木愛石 川谷南琴 黒木拜石 伊藤芳堂 (奈良) 辻本史  
 臣 (福井) 宇野源石 竹谷清堂 (富山) 堀越正一 淺見鶴亭 (長野)  
 水俣忠水 (三宅) 市川善南 西崎光輝 (富山) 網田九郎 (岡山) 大原  
 桂南 久川柳堂 中野梅山 吉田鶴亭 (山形) 網田九郎 (岡山) 大原  
 國一 沖六 森松石 平尾花堂 渡邊金伴 吉田重常 山本高輝 山本徳壽  
 兼高齋 松澤密芳 (大分) 須田流 西島英石 日出東山 松平永  
 高齋 相澤洋 鈴木雲洞 尾上崇舟 久志本勉 小林逸軒 井原安  
 正 田中真洲 尾常時 岡山高陽 神郡義秋 土屋南南 山口幸輝 坂

しかし、時代の流れと世相の移り変わりや、戦争色が濃くなる中で、書を競う大会も少なくなって青年会の活動も衰微してきた時、里人の書に対する熱意は児童生徒に大きく期待がかけられるようになりました。

昭和 11 年(1936)に地元書道家の先生方の呼びかけで、「県下児童席上揮毫大会」が小野尋常小学校で開かれるようになり、戦争の最中も中止されることなく現在に至っています。

その作品は今でも小野小学校に大切に保存されています。

【参照 P(415) (4)県下児童生徒席上揮毫大会】



県下児童席上揮毫大会 昭和 30 年代始め



揮毫大会審査風景昭和 30 年代始め

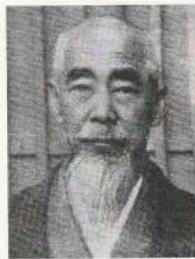
また、現在の小野道風顕彰活動の契機となったのが、昭和 19 年(1944) 11 月 12 日に開催された「道風祭、小野道風公生誕 1050 年祭」です。

太平洋戦争末期の混乱のなかにもかかわらず、全国から書家・歌人・詩人らの文化人が多数参加し、道風をたたえる内容の詩歌や書作品が奉納される盛大な祭典でした。

【参照 P(404) (2)道風祭 ①道風公生誕 1050 年祭】



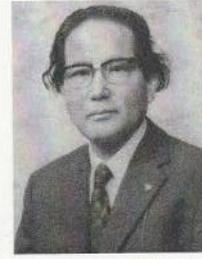
小野道風公の研究・顕彰活動を指導された先覚者



浅野 菴堂氏



安藤 直太郎氏



藤田 東谷氏

② 戦後の顕彰活動

昭和 20 年 8 月終戦、それから 4 年後、小野道風公誕生 1055 年にあたる昭和 24 年 (1949) からは、道風祭にあわせて全国公募の書道展である「小野道風公奉賛全国書道展覧会 (道風展)」が、毎年 11 月 3 日に催される道風祭に合わせて開かれるようになりました。

この展覧会は、藤田東谷先生をはじめ書道団体と地元松河戸が始め、後に市や新聞社も加わりました。

農繁期にもかかわらず総出で協力し、文字通り草の根の盛り上がりで築き上げた道風展で、回を重ねるごとに充実していきました。

【参照 P (412) (3)道風展】

昭和 29 年には小野道風公誕生地が愛知県指定文化財史跡第 1 号に指定されました。

そこで名古屋栄町丸栄百貨店 7 階ホールで第 6 回道風展を開催し、戦後最初の大展覧会で一躍有名になりました。

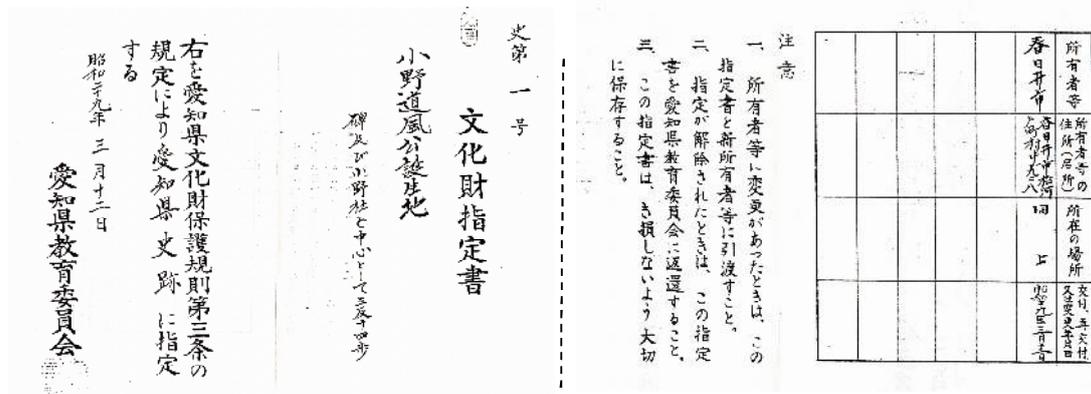


昭和 29 年 3 月に県史跡指定されました。  
写真は、旧小野社 昭和 50 年頃  
石柱は大正 4 年に 10 月御大典記念を祝して、愛知県より「小野道風誕生地」の石碑が建てられたもの



道風公園造りで住民総出の奉仕活動 昭和 30 年  
▲戦後婦人会での社会奉仕活動

道風誕生地の県史跡指定がされたことで、遺跡探求の人や学生団体など見学者が増えました。そこで境内の狭さや不体裁さを整備する機運が高まり、道風誕生 1060 年祭の記念事業として公園造成、道風記念館建設など、公園や記念館を整備しようと、保存会が中心となって全国に趣意書 (P407 誕生 1060 年祭趣意書) で呼びかけ、住民総出の勤労奉仕や浄財をもとに、昭和 30 年当時春日井唯一の公園として道風公園が完成しました。



文化財指定書 昭和 29 年 3 月愛知県指定文化財史跡第 1 号に指定されました



昭和30年 道風公園と旧道風記念館の完成を区民で祝う。左写真の左側に見えるのが旧道風記念館  
右側にNHKの中継車がある。NHKのど自慢大会やもち投げも行われた。



▲柳園 昭和39年に区民で作った柳園  
(現在の道風記念館の所)



完成した道風公園(旧)と「道風カエル」31年 市役所



道風カエルの台座の拓本

昭和30年当時春日井唯一の公園として遠足などで賑いました

また、旧道風記念館は、建物の払い下げを受けて造られ、講堂のような建物で、昭和56年(1986)年に春日井市により現在の記念館が建てられるまで道風展の表彰式などに使われました。

翌31年には市内の小中学生の寄付で普段の努力の大切さを教える「柳に跳びつく蛙」の寓話にちなんだ「道風カエル」が設置されました。蛙の像の台座には「たゆまぬ努力 成功のもと」と蛙の説話にちなんだ言葉が書かれています。



小野小学校の道風公像  
写真は昭和40年

また、戦前からある小学校には、よく江戸時代の農村再興の指導者として名声を博した二宮尊徳の少年時代を象徴する二宮金次郎像が建てられていますが、小野小学校には小野道風公の像が建てられています。

生誕1050年祭やその後毎年の道風展に参考作品として寄せられた書作品は大切に保存れ、800点ほどになっていました。

それらの作品を多くの方に鑑賞していただき、小野道風の偉業を広く知らしめるために、「春日井市道風記念館」の建設がされることになり、昭和56年(1981)に開館しました。



## ④ 小野道風顕彰活動・事業の年表

元号（西暦）	内 容
文化 12 年 1815 年	・尾張藩の儒学者である秦鼎（はたかなえ）（1761～1831）は誕生地跡に宅跡の碑「小野朝臣（道風）遺跡之碑」を建てる。
大正 4 年(1915)	・大正天皇の即位の大典に当たり、愛知県から「小野道風公誕生地」の標石が建てられる。
昭和 4 年(1929)	・ 9 月 観音寺山門前に道風公の立像が建てられる。
昭和 6 年(1930)	・ 6 月 CK 放送(名古屋中央放送局)の偉人講座で石田泉城の「蛙で名高い小野道風」が放送される。
昭和 9 年(1934)	・道風公誕生 1040 年記念に、安藤直太朗が「郷土の生める小野道風公を語る」という題で、CK 放送で話している。尚この時の話は、小冊子にまとめられている。
この頃	・安藤直太朗が道風の研究を「月間東亜書道誌」に毎月掲載する。 ・小野小学校校長波多野昇が道風の研究を雑誌に掲載する。 ・道風の生誕地は松河戸でなく上条だとする説が現れ、論争が起こる。 上条で発行された「書聖日本三蹟小野道風公誕生地楡葉書」5 枚組が残っている。しかし、様々な論議の結果、松河戸がその生誕地であると一般に認められる。
昭和 10 年(1935)	・遺跡保存会は、「小野道風公誕生地並遺跡保存に就いて」という冊子を発行し、松河戸が道風の生誕地であるという正統性を論解している。
昭和 11 年(1936)	・地元書道家の先生方の呼びかけで、小野尋常小学校で「県下児童席上揮毫大会」が始まる。
昭和 12 年(1937)	・観音寺門前に「市川小松氏之碑」が建てられる。
昭和 19 年(1944) (道風公誕生 1050 年祭)	・太平洋戦争末期の混乱のなかにもかかわらず、国内の大家も出席して小野道風公誕生 1050 年祭(道風祭)が盛大に行われる。
昭和 24 年(1949)	・第 1 回小野道風公奉賛全国書道展覧会(道風展)が開かれる。(毎年 11 月 3 日文化の日に行う) ・小野道風公遺跡保存会が発足、前身となる「小野道風公誕生地遺跡保存会」、その後の「小野道風公遺跡保存協賛会」などと変遷を見させてきたが、道風を顕彰し、その遺跡の保存に努めるという目的は変わらない。
昭和 29 年(1954) (道風公誕生 1060 年祭)	・ 3 月 小野道風公誕生地が愛知県指定文化財跡第 1 号に指定される。 ・ 11 月名古屋栄丸栄 7 階ホールで第 6 回道風展を開催し、戦後最初の大展覧会で一躍有名になる。 ・遺跡探求の見学者が多数、松河戸に訪れる。
昭和 30 年(1955)	・住民総出の奉仕活動により、当時春日井唯一の公園である道風公園が完成する。 (境内の狭さや不体裁き整備する機運が高まり、道風誕生 1060 年祭の記念行事として、境内拡張、公園造成、旧道風記念館建設がされる。)
昭和 31 年(1956) この頃	・春日井市の小中学校の児童生徒の寄進でカエル像「たゆまぬ努力は成功のもと」が建設される。 ・「小野道風公誕生地」の石碑 揮毫は愛知県知事桑原幹根に依頼 建立年不明
昭和 39 年(1964) (道風公誕生 1070 年祭)	・道風公誕生 1070 年の記念事業として柳園の整備と「小野道風公誕生地之碑」「浅野醒堂翁詩碑」を建立。郷土史家安藤直太朗氏に本「小野道風」を依頼
昭和 40 年(1965)	・安藤直太朗氏に本「小野道風」刊行 ・公園内の筆塚建立 遺跡保存会の初代会長 長谷川斧を顕彰碑建立
昭和 47 年(1972)	・安藤直太朗の古稀を記念して、その祝歌碑が建立 ・竹この頃、ひご細工でできたカエルを訪れる人に配布
昭和 49 年(1974) (道風公誕生 1080 年祭)	・浅野醒堂の頌徳碑を建立
昭和 55 年(1980)	・県下児童生徒席上揮毫大会を主催する小野道風公遺徳顕彰会が発足
昭和 56 年(1981)	・小野道風公遺跡保存会が第 1 回「けやき賞」を受賞 ・ 11 月老朽化の激しかった記念館に変えて、春日井市により道風記念館開館(翌年から道風の書臨書作品展始まる)
昭和 57 年(1982)	・昭和 55 年に亡くなった藤田東谷の顕彰碑を建立
昭和 59 年(1984) (道風公誕生 1090 年祭)	・観音寺境内に筆塚建立、道風公誕生の碑
昭和 60 年(1985)	・この年から道風祭記念野外大揮毫大会が行われる。道風記念館横に小野道風公像建てられる。
平成 6 年(1994) (道風公誕生 1100 年祭)	・道風誕生 1100 年祭の記念行事が盛大に行われる。
平成 21 年(2009)	・ 10 月 市制 65 周年のイベントとして春日井まつりの中で野外大揮毫大会行われる(八幡小学校で実施)。よって遺跡保存会の揮毫大会は中止
平成 22 年(2010)	・松河戸野外揮毫大会中止し、春日井まつりの中で実施していく
平成 23 年(2011)	・ 3 月 区画整理に伴う小野社の移転作業終了 ・ 8 月 新小野社の竣工式典行われる。
令和 2 年(2020)	・「松河戸町の沿革」誌を発刊する。

## (2) 道風祭

松河戸では、古くから小野道風公の顕彰活動(道風祭)を行ってきましたが、現在の小野道風顕彰活動の契機となったのが、昭和 19 年(1944) 11 月 12 日に開催された「道風祭、小野道風公生誕 1050 年祭」です。

太平洋戦争末期の混乱の中にもかかわらず、全国から書家・歌人・詩人らの文化人が多数参加し、道風をたたえる内容の詩歌や書作品が奉納される盛大な祭典でした。【参照 p404 ①道風公生誕 1050 年祭】



道風霊神

戦後、松河戸では「小野道風公遺跡保存会」を新たに結成して、毎年 11 月 3 日文化の日に道風祭を開催しています。

昭和 29 年 3 月に県の史跡文化財に指定されたことで見学者が増え、道風公生誕 1060 年祭には、公園や記念館の整備計画を立て、翌年の 1061 年祭(昭和 30 年(1955))は、道風公園と旧道風記念館の完成を祝って、NHK のど自慢大会やもち投げなどが行われ盛大にお祝いしました。

【参照 p406 ②道風公生誕 1060 年祭、1061 年祭】

また、道風公誕生の 10 年の節目には、顕彰碑を建てるなど史跡の保存と顕彰に努めています。特に平成 6 年の誕生 1100 年祭には、道風祭(11 月 3 日)に加え、記念事業(11 月 12 日道風公没日)を実施しました。

【参照 p408 ③道風公生誕 1100 年祭】

そして、昭和 60 年(1985)～平成 20 年(2008)には、道風祭に合わせて野外大揮毫大会も実施しました。

【参照 p410 ③野外大揮毫大会】

### ① 道風祭 (通常の年の道風祭)

- 道風祭式典(11月3日)午前  
観音寺衆寮堂(仏式)  
小野社前(神式)
- 十五の森供養(11月3日) 午前  
十五の森(仏式)



道風祭式典 観音寺衆寮堂 仏式 平成 28 年  
仏壇は向かって左から、  
秋葉大権現、道風霊神、十五薬師如来



道風祭式典 観音寺衆寮堂  
仏式 平成 30 年



十五の森 供養 平成 28 年



道風祭式典 小野社前 神式 平成 28 年



道風祭式典 小野社前 神式 平成 30 年

## ② 道風祭（特別記念行事）

### ① 道風公生誕 1050 年祭（昭和 19 年(1944)）

小野道風公の顕彰活動については、昭和初期「道風公出産地保存会」が設立され、ますます盛んに行われていましたが、戦争色が濃くなる中で、書を競う大会も少なくなってきました。

そんな中、地元の書道家の熱意は児童生徒に大きく期待がかけられ、昭和 11 年に地元と書道家の先生方の呼びかけで「県下児童席上揮毫大会」が小野尋常小学校で開催されましたが、昭和 19 年 11 月 12 日は道風公生誕 1050 年にあたります。

昭和 19 年 8 月、観音寺内において「道風公生誕 1050 年祭奉賛会」を設立し、奉賛会長に春日井市長安達英一氏を推載し、委員長に安藤直太郎、委員に武田良道志師、藤田東谷氏、伊藤逸雄、小林秀波氏、杉浦朗氏を委嘱し準備にかかりました。

昭和 19 年(1944)11 月 12 日、松河戸町観音寺において、道風公誕生 1050 年祭が行われました。

当日は「天気晴朗にて且つこの日に限り警報の発令見ず」とのことでした。

戦争の最中であり、日本が最も困窮の極みにあった中にも関わらず、関東の代表野本白雲、関西の代表伊藤東海、在名作家石田泉城をはじめ名古屋市長佐藤正俊など、近在市長、国会議員、詩人、歌人などの多数の来賓の列席を得て祭典は厳修<sup>ごんしゅう</sup>せられ、今日では想像もできないほどの名士が集まりました。

観音寺裏書院の 2 階にて献書の製作が行われています。

あわせて全国の著名書家や地元作家、学生からの献書を展観する展覧会が催されるとともに、詩人、歌人により道風を詠んだ詩歌の献詠も行われました。

昭和 12 年 13 日名古屋に初の本格的な空襲があった 1 か月前のことであり、警報発令の間を縫って行われ、日本文化の隆昌と書道の振興が誓われました。

この大会の祭典委員長は春日井市教育委員長も務めた安藤直太郎氏で、後に安藤直太郎氏は、それまで出版されたことのない小野道風伝記をまとめることに情熱を傾け、道風のみを取り扱う最初の刊行誌「小野道風」となって結実しています。

この大会は、春日井市における道風顕彰活動の原点でもあり、終戦から 4 年後の道風公生誕 1055 年祭にあたる昭和 24 年、広く全国から作品を募り道風の祭典にささげることとなり、「小野道風公奉賛全国書道展覧会」(道風展)が道風祭と同時に実施されることとなります。

1050年祭 謹誌

昭和19年11月13日

書聖小野道風公尾張國松河戸に生誕せられより昭和19年は正に1050年に相当せり時恰も大東亜戦下公私繁忙の際といえどもここに有志相諮り公の命日たる11月12日をトしこれが記念祭典を執行し大いに同公の文勲並に遺跡の顕彰をなさむと。同年8月観音寺内に野公生誕1050年祭奉讃会を設立し、奉讃会長に春日井市長安達英一氏を推戴し、委員長に安藤直太朗、委員に武田良道師、藤田東谷氏、伊藤逸雄氏、小林秀波氏、杉浦朗氏を委嘱す。これが記念事業として記念祭典及び学童競書会、書道展並びに安藤直太朗著小野道風伝の刊行等を決定し、9月に入り着々進捗す。

昭和19年11月12日祭典執行の当日は、天気晴朗にして且つこの日に限り警報の発令を見ず。東京大坂方面を始めとし、各地よりの参会者多数に上れり。即ち午前中に小野国民学校の於て学童競書会を挙行し、午後1時より観音寺に於て之が記念祭典を執行す。本堂中央正面に同寺所蔵小野拳時筆の尊像を奉掲し、東西南の3面に全国諸名家寄進の筆跡を展覧す。定刻、全員着座、観音寺住職武田良道師以下衆僧の読経厳修裡に進行す。奉賛会長安達英一氏及び東春日井郡町村会長丹羽欽治氏の祭詞並びに書道界代表として東京野本白雲先生、大阪伊藤東海先生、名古屋石田泉城先生交々起ちて祝詞を述べらる。此日来賓として名古屋市長佐藤正俊閣下、代議士樋口善右衛門殿を始め、名士公職者多数の参会あり、祭典終了後記念講演会に移り、奉讃会委員長安藤直太朗起ちて野公の偉大なるはわが国書道史上唐様を脱却し、和様を確立せる点に存し、日本精神文化史上の画期的偉勲を礼賛し、且つ遺跡保存とこれが顕彰の経過を回顧すると共にこれが将来の施策とに言及し、更に正確なる伝記の研究並びに業績の究明の必要を力説し、道風神社の創建並びに贈位奏請の3点を提案し、これが実践の吾人の責務なる所以を詳述せり。引き続き愛知県教育委員会主事伊奈森太郎氏及び愛知第一師範学校教授高木元裕氏の記念講演あり、次て呈茶、席上揮毫等極めて盛会裡に予定の行事を滞りなく終了することを得たり。

そもそも野公生誕一千五十年祭典執行の企画するや時あたかも大東亜戦争下多忙の間にありて構想未だ熟せず、規模狭小の憾なしとせず、野公の如き大東亜の偉人は宜しく国家的見地よりこれが顕彰の方途を講ずべきなり。

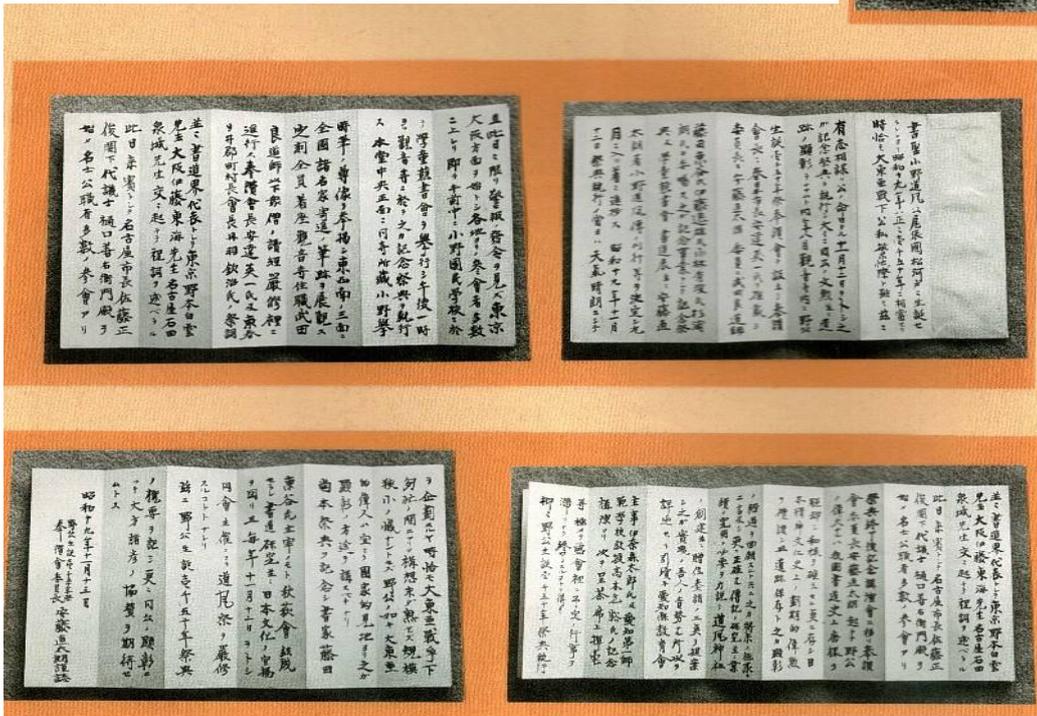
なお、本祭典を記念し書家藤田東谷氏主宰のもと秋萩会結成せられ、書道研究ならびに日本文化の宣揚を図り且つ毎年11月12日をトとし、同会主催により道風祭を厳修することとなれり。

ここに野公生誕一千五十年祭典に概要を記し、更に同公の顕彰につき大方の諸彦の協賛を期待せんとす。

昭和19年11月13日

野公生誕一千五十年祭奉讃会委員長 安藤直太朗 謹誌

奉賛会委員長  
安藤直太朗氏  
所感







⑥ 道風公生誕 1100 年祭 (平成 6 年(1994))

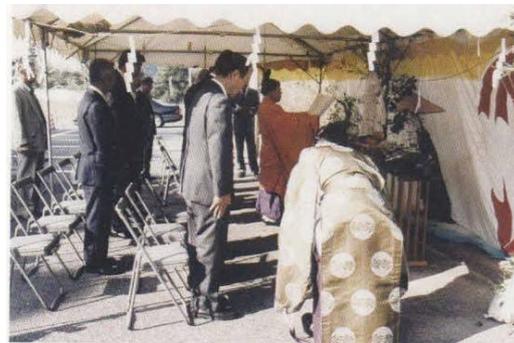
11 月 3 日には道風祭(生誕 1100 年祭)が行われ、11 月 12 日(道風公没日)には、特別記念行事が行われました。

記念事業では、遺跡保存会、1100 年祭実行委員会によって建てられた「小野道風公誕生 1100 年記念碑」(道風記念館入口右)の除幕式を始めとして、文化芸能大会もおこなわれ、文化祭奉仕団の婦人会のご協力のもと、舞踊、道風公の書説明会、歌舞伎、大正琴演奏、詩吟、カラオケなど盛り沢山の催しが行われました。

11 月 3 日 道風祭



▲売店 (おでんやまんじゅうなど)



▲道風祭式典



▲庄内川河畔での野外大揮毫大会



▲表彰式

野外揮毫大会は、昭和 60 年から平成 20 年度まで 24 回実施しました。



道風公生誕 1100 年祭

11 月 3 日 道風祭  
11 月 12 日 特別記念行事

縁の下の力持ちの  
文化祭奉仕団の方々

11月12日 特別記念行事

◆道風公生誕 1100 年祭記念行事



◀ 1100 年記念碑除幕式



▲道風公生誕 1100 年文化祭奉仕団



▲文化祭（道風公の書 説明会）



▲筆供養



▲文化祭（歌舞伎）



▲文化祭（かえる舞踊）



▲文化祭（琴演奏）

### ③ 野外大揮毫大会 昭和 60 年(1985)～平成 20 年(2008)

毎年 11 月 3 日の文化の日に道風祭を実施していますが、「小野道風公生誕 1091 年祭」(昭和 60 年)から道風祭のなかで、野外大揮毫大会を始めました。

この大会は、庄内川河原でのびのびとした雰囲気の中、幅 5m、長さ 100m 余りの紙に揮毫するものです。(紙は後に幅 4m、長さ 80m に縮小)

春日井市観光協会、中日新聞社、小野道風公遺跡保存会の主催で行われました。

春日井市内はもちろん、市外からも大勢の人が道風さんに扮した区長の合図で一斉に揮毫する様は壮観です。

道風公園において表彰式が行われ、その間、観音寺では筆供養がおこなわれました。道風公園には、書道用具店、菓子屋、植木屋と共に、町内婦人会によるおでん、みたらし、うどんの出店が並び、観音寺境内では子ども会役員による甘酒の無料接待が行われました。

しかし、平成 21 年の第 25 回目揮毫大会では、春日井市が市制 65 周年の春日井まつりの一つのイベントとして八幡小学校で行いたいとのことで、松河戸の庄内川グラウンドでの大会はこの年は中止しました。

翌年からは、あのような大きな紙ではできないが、春日井まつりの中で行っていくとの市との合意で、松河戸野外大揮毫大会は 24 回の歴史を終えることとなりました。

(八幡小学校で行われたのを含むと 25 回)

### ●第 1 回 野外揮毫大会(昭和 60 年 11 月 3 日)が行われた道風祭の様子を紹介します。

○道風祭式典 午前

観音寺衆寮堂(仏式)

ふれあいの家前(神式)

○十五の森供養 午前

十五の森(仏式)

○野外大揮毫大会 午後

受付、表彰式(道風公園)

野外大揮毫大会(庄内川グラウンド)

○お土産品販売コーナー道風公園 一日

○筆供養 観音寺境内 午後

○伝小野道風筆断簡等(観音寺宝)の展示 観音寺 一日



道風祭式典(神式)の様子 昭和 60 年



区長の太鼓の合図で始まります。昭和 60 年



第 1 回野外揮毫大会を告げる看板 昭和 60 年



公園では、婦人会の人達が、おいしい食べ物を作って、揮毫大会が終わるのを待っています。  
(昭和 60 年)



上の写真は 始め！ 下の写真は終わり！  
いつもどおり 書けたかな？ (昭和 60 年)

野外揮毫大会参加人数 (一部掲載)

回	実施年	幼児、 保育園	1年から 3年	4年から 6年	中、高 校	一般	合計
8	平成 4 年					-	271
9	平成 5 年					-	250
10	平成 6 年					-	190
11	平成 7 年					-	
12	平成 8 年	17	51	46	11	-	125
13	平成 9 年	19	63	51	11	-	144
14	平成 10 年	8	45	48	12	-	113
15	平成 11 年	25	67	58	11	50	211
16	平成 12 年	9	48	46	13	80	196
17	平成 13 年						雨天中止
18	平成 14 年	9	24	33	11	80	157
19	平成 15 年	8	18	23	9	70	128
20	平成 16 年	19	33	44	16	80	192
21	平成 17 年	26	35	21	18	70	170

- 15 回(平成 11 年)から一般の部実施
- ・ 春日井市長賞
  - ・ 春日井市観光協会賞
  - ・ 道風公遺跡保存会長賞
  - ・ 中日新聞社賞
  - ・ 春日井市ライオンズクラブ賞

- 賞
- 春日井市長賞
  - 春日井市観光協会賞
  - 道風公遺跡保存会長賞
  - 中日新聞社賞
  - 春日井市ライオンズクラブ賞

●第 10 回 野外揮毫大会(平成 6 年 11 月 3 日)が行われた道風祭の様子を紹介します

第 10 回野外揮毫大会は、道風公生誕 1100 年祭の中で 11 月 3 日に行われていますが、この年は、道風公生誕 1100 年祭特別記念行事も 11 月 12 日に行われました。

視察に来た市資産税課の職員の手記

(道風公誕生 1100 年祭 平成 6 年 11 月 3 日)

平成 6 年度は 190 人の参加、朝の雨もあがり、市内の書家 4 人が長さ 1.5m のジャンボ筆で「1100 年記念」と大書した後、太鼓の合図でスタート

当日の受付→当日の審査→表彰と目の回るような忙しさの中で役員は大変である。

大きな紙をつなげる作業も、河原にとばないように設置するのも役員の方の作業になる。

そんな苦勞も、気持ちよさそうに筆を運ばせる子ども達を見ると吹っ飛んでしまう。

参加者平成 4 年 271 人  
平成 5 年 250 人  
平成 6 年 190 人



第 10 回 ポスター  
野外大揮毫大会

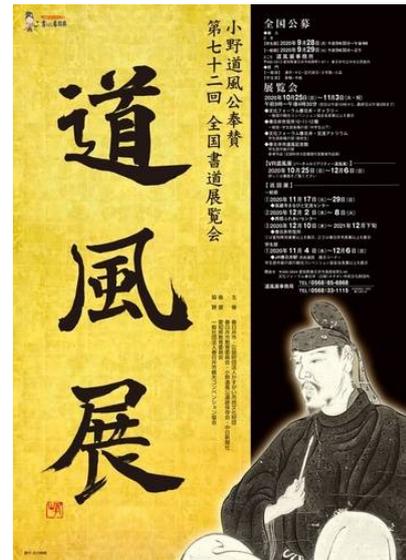
### (3) 道風展(全国書道展覧会) 昭和 24 年(1949)～

昭和 24 年(1949)からは、全国公募の書道展である「小野道風公奉賛全国書道展覧会(道風展)」が、毎年 11 月 3 日に催される道風祭に合わせて開かれるようになりました。

第 1 回展は松河戸の旧道風記念館と観音寺において開催され、春日井市教育委員会、小野道風公遺跡保存会の主催、中日新聞社の後援でした。

この展覧会は小野道風公を顕彰し、併せて市内の書道文化の振興を目指して、藤田東谷先生をはじめ書道団体と地元松河戸が始め、後に市や新聞社も加わりました。

農繁期にもかかわらず住民総出で協力し、文字通り草の根の盛り上がりで築き上げた道風展で、回を重ねるごとに充実していきました。



第 72 回(2020 年)道風展のポスター

昭和 29 年 3 月に道風誕生地の県史跡指定がされたことで、昭和 29 年の道風展からは名古屋展(丸栄百貨店、県美術館)も始まりました。

名古屋栄町丸栄百貨店 7 階ホールで第 6 回道風展が開催されましたが、戦後最大の展覧会で一躍有名になりました。

現在の展示会場は、市役所、市文化フォーラム、中央公民館、道風記念館などでおこなっていますが、最初の頃は旧道風記念館、青年会場、観音寺などで行っており、旧道風記念館で表彰式などが行われました。

青年会場は、戦前の建物で青年団の活動拠点として建てられたもので、旧道風記念館は昭和 29 年に道風公園と同時に造られましたが、建物の払い下げを受けて作られ、講堂のような建物で、昭和 56 年(1986)に春日井市により現在の記念館が建てられるまで表彰式などに使われていました。

生誕 1050 年祭やその後毎年の道風展に参考作品として寄せられた書作品は大切に保存され、800 点ほどになっていました。

それらの作品は、昭和 56 年 11 月に開館しました「春日井市道風記念館」に保管されています。

主催は、春日井市、公益財団法人かすがい市民文化財団、春日井教育委員会、小野道風公遺跡保存会、中日新聞社の共催で、表彰式は 11 月 3 日に春日井市民会館で行われています。



墨の濃淡を生かした作品や流麗な筆遣いの作品が並ぶ会場



第 71 回表彰式 春日井市民会館



道風展 第10回 昭和33年 中央公民館



第6回 記念作品展 愛知県美術館にて



第18回道風展(昭和41年)

左の写真は旧道風記念館(第1会場)、右の写真は松河戸青年会場(第2会場)  
 その他、観音寺、市役所、中央公民館が会場になっていた。  
 昭和29年からは名古屋展(丸栄、県美術館)も始まる。



← 昭和38年 第15回道風展(観音寺)  
 ↑ 昭和44年 第21回道風展(観音寺)  
 松河戸の観音寺がメイン会場で行われていた。



昭和46年 第23回道風展 屏風作品展示(観音寺)



昭和48年 第25回道風展 学生半紙の展示(観音寺)

# 藤田東谷氏の顕彰運動 新聞記事 平成10年

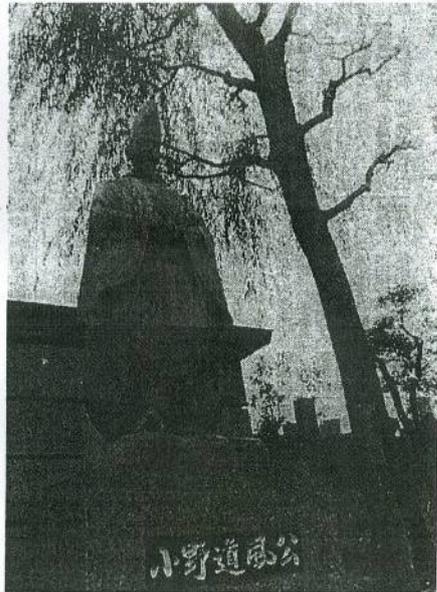
「中日新聞社許諾済」

1998年(平成10年)10月27日(火曜日)

平安時代に和様の書の基礎を築き、三蹟(せき)の一人に数えられる書聖・小野道風(八九四-一九六〇)の生誕地とされる春日井市(三十一日、全国から約七千名が出席された書の公募展「道風展」(中日新聞本社共催)の五十回展が始まる。柳とカエルの伝説で知られる道風を敬って、原らが築き上げてきた書展は、半世紀の歴史を刻んだ。これを機に、道風に情熱を注いできた人たちの歩みと、書の神様、をまもつての巨匠に敬意と行政の動きを伝えた。



◇上◇  
4.10.10.27  
中日



小野道風公

「せっかく道風公が生まれたこの地が知られていないのは残念。せひとも顕彰運動をやらねば」。道風展は、書家・藤田東谷氏(一九〇九-一九八〇年)の、こんな思いから生まれた。元号が昭和になった年に、教員生活を始めた藤田氏は、道風の生誕地とされる松河戸町にほど近い小野国民学校(現・小野小学校、同市小野町)に赴任。同校で書の指導をするうち、地元の人たちの道風に寄せる思いの大きさにあらためて感じ入ったという。

郷土史家や道風研究者でもあった故・安藤直太郎氏との親交もあって、戦前から自ら中心となって道風の



## 生涯をささげた 書家の藤田氏

「書板を取り付けると、文字通り奔走した。夜も第九時が藤田氏の自宅に集り、作品の整理から書き、賞状の原稿書きに専ら準備し追われた。作業は日、真夜中も含めて。先生に頼まれりゃ、やらあかんわなあ」と言いながら、作品を張り出す壁面作りに加勢したり、農繁いかにうかがいもなく、放の書を書き送るのに、一期に重なるにもかかわら

「必ず道風さんが守ってくれる。これからもっと顕彰運動に励まなくては」。道風展 マ春日井会場 31日-11月8日、一般・学生来場の際は春日井市役所 10-12階、半生半紙の部。参考作品は道風記念館、観音寺(松河戸町)。50回展を記念して、同市役所・市民ギャラリーで、過去の文部大臣奨励賞作品や展覧会風景の写真などを展示する。名古屋会場、11月10-15日、県美術館ギャラリー(東区東校)で、一般部の上位入賞作品を展示

## 生誕の地 顕彰運動せひとも

農村から全国公募展

#### (4) 県下児童生徒席上揮毫大会 昭和 11 年(1936)～

松河戸は道風ゆかりの地であり、昔から書を競う会が盛んで能筆の人が多くいました。

しかし、時代の流れと世相の移り変わりや、戦争色が濃くなる中で、書を競う大会も少なくなってきた時、里人の書に対する熱意は児童生徒に大きく期待がかけられるようになりました。

昭和 11 年(1936)に地元書道家の先生方の呼びかけで、「**県下児童席上揮毫大会**」が、小野尋常小学校(現小野小学校)で開かれるようになり、戦後の最中でも中止されることなく毎年 11 月第 1 土曜日に実施し現在に至っています。

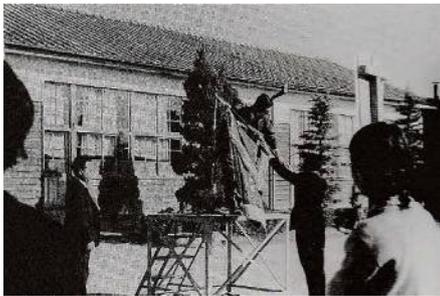
その作品は、いまでも小野小学校の校長室の大金庫に保存されています。

昭和 60 年には、50 周年を記念して小野道風公遺徳顕彰会、小野小学校で「**五十年の歩み**」を発行しています。



第 30 回(昭和 40 年) 校庭での開会式

#### 県下児童生徒席上揮毫大会 昭和 30 年代初め



表彰式



審査風景



中学生の部 第 12 回(昭和 22)から中学生も加わる



小学生の部

#### 県下児童生徒席上揮毫大会 令和元年度 (84 回)



令和元年 県下児童席上揮毫大会  
始まる前の母親との最後の打ち合わせ



令和元年 県下児童席上揮毫大会  
県内 91 の小中学校から選ばれた 782 人の児童生徒が参加した。  
真剣なまなざしで課題に取り組む生徒

## 揮毫大会の実施方法

毎年 11 月の第 1 土曜日に実施(戦争中も中止せず)

- ・参加範囲…………… 愛知県内の小中学校
- ・参加資格…………… 学年 2 名、学校長推薦
- ・揮毫用紙…………… 2 枚支給し 1 枚提出(自選)
- ・手本…………… 当日は一切使用せず
- ・課題…………… 毎年 6 月下旬発表
- ・参加料…………… 無料
- ・作品保存…………… 第 1 回より入賞作品保存

令和元年度 揮毫大会一年間のながれ  
小野小学校  
小野道風公遺徳顕彰会

- 5 月 揮毫大会協力員の募集
- 7 月 揮毫大会要領発送
- 8 月 補助金申請
- 9 月 参加校への案内発送
- 10 月 席上揮毫大会
- 11 月 席上揮毫大会 審査会  
賞状・盾準備
- 12 月 表彰式  
大会お礼文書発送  
道風記念館にて優秀作品展

## 席上揮毫大会の経過

**第 1 回大会**(昭和 11 年)から第 11 回(昭和 21 年)までは、小学 2 年から小学 6 年までの参加でした。昭和 11 年は国定教科書が顔法から鈴木翠軒本に変わった年でもありました。

**第 9 回**(昭和 19 年)は、太平洋戦争末期の混乱のなかで紙 1 枚も自由に買えない時代でした。

空襲は日を追って激しくなり、鳥居松工廠近くの小野国民学校は爆撃目標になることは必至でした。この年は、小野道風公生誕 1050 年の記念すべき年で「誕生祭」も「揮毫大会」も開きたい。「昭和 11 年から続いているこの揮毫大会を挫折させたくない」と、だれもが何としても続けたいとの一念でしたが、この状況下で開催を口にするものはいませんでした。

中止との方向へ進みかけた時、地域住民などから開催してほしいとの声が高まり、万難を排し敢行することとなりました。児童や付添いは皆防空頭巾とモンペ姿に身をかため、胸に名札をつけて参加しました。

**第 10 回**(昭和 20 年)終戦の年も実施されました。食べることに精一杯の時代でしたが、課題の道風(みちかぜ)にちなんだ言葉に取り組みました。

**第 12 回**(昭和 22 年)からは中学生も加わり「県下児童席上揮毫大会」から「県下児童生徒席上揮毫大会」に名称が改められました。

**第 13 回**(昭和 23 年)からは小学 1 年生も参加することとなりました。

**第 14 回**(昭和 24 年)では中学 3 年生までできたことで、現在のように小学 1 年から中学 3 年までの 9 学年の全児童生徒が参加することとなりました。この年は当用漢字制定の年でもありました。

**第 16 回**(昭和 26 年)は、毛筆書写は昭和 22 年以降小学校で指導されていみせませんが、小学校教育課程が 4 年ぶりに改定されて、児童・学校が必要と認めれば 4 年生以上で毛筆指導を科してもよいという試案が出された年でもありました。

**第 23 回**(昭和 33 年)この年は、「書き方」毛筆習字を「書写」とよび、毛筆書写は国語科の一領域とし、小学 4 年以上選択と告示されました。

**第 24 回**(昭和 34 年)この年は伊勢湾台風により小野小学校も大きな被害にあいました。校舎の天井に穴が開いたり、机なども土砂で汚れたりしましたが、皆で応急処置をして大会が実施されました。

**第 25 回**(昭和 35 年)からは、小学高学年の五字課題が消えました。

**第 30 回**(昭和 40 年)のころ、教科書は検定となりました。

**第 36 回**(昭和 46 年)この年毛筆による書写が小学 3 年から必修となりました。

**第 85 回**(令和 2 年)は、年当初からの新型コロナウイルス蔓延により開催が危ぶまれました。しかし、「先の大戦中や伊勢湾台風に見舞われた年も途切れずに行ってきた 84 年間の伝統を守るためにも中止だけは絶対に避ける」との思いから、初の郵送形式での実施となりました。第 86 回も同様に実施された。



昭和 60 年発行 50 周年記念誌

参考 五十年のあゆみ(県下児童生徒席上揮毫大会)から

## (5) 教育書写の変遷

習字の教育は、和歌や漢詩などの一節を、和漢の古典の中から選び、能書家に揮毫してもらい、それを手本に用いる方法で行われ、師風を受け継ぐ形で続いていましたが、江戸時代には、これだけでは不満の人達が現れ、「三跡」を中心とする古名筆を学ぶ風潮が出て、道風の書は最も貴重なお手本となりました。

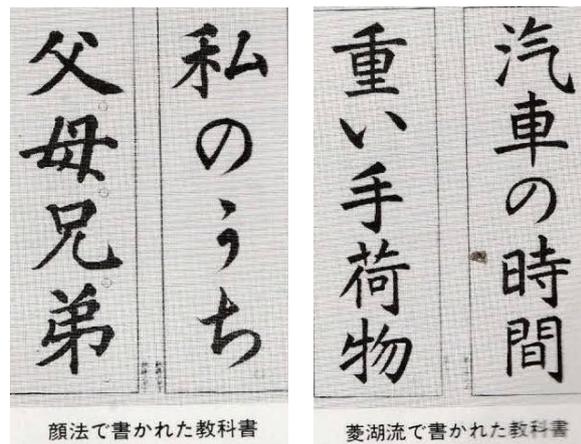
その後、習字教育のもっとも基本となる教材は、それぞれの時代によって変遷がありました。



### ① 明治政府の和様の書から唐様への切り替え

明治政府は公式の書風を和様の書から唐様に切り替え、旧幕時代の公用書体であるお家流は影をひそめ、それに合わせて日本書道も大きく唐様になっていきました。

唐様の中でも、最も広く用いられたのは巻菱湖の菱湖流でした。教科書は明治30年頃には国定化となり国定教科書は片仮名、楷書先習が定形となって、その形態は長く続き、書風は長三州の顔法と菱湖流が引き継がれていきました。



顔真卿 …… 唐の時代の人「顔法」と呼ばれる書法を新たに編み出した書家

巻菱湖 …… 江戸末期の書家「幕末の三筆」の1人に数えられ、能書として知られる。独自の唐様の書風を確立。

長三州 …… 明治政府の官僚、漢学者、書家、漢詩人 明治10年(1877年)顔法で執筆した長三州の『小学校習字本』が発行される。

明治33年には、一つの教科として存続していた「習字」が、国語科の一分野として「書き方」という位置におかれました。

### ② 舶来尊重時代の 大正時代

大正時代は舶来尊重時代で、筆記具においても鉛筆やペン等が一般的に浸透し、毛筆習字が軽んぜられた時代ともいえます。

教科書については、国定教科書が改訂をくり返しながら明治から継続され、顔法や、お家流、菱湖流、六朝流の長所を取り入れた教本などが取り入れられた。

### ③ 昭和戦前期の芸術的香気、精神陶冶の高い時代

昭和初期の国定教科書の著者は、甲種鈴木翠軒、乙種高塚竹堂とされており、実用性を主とした従来の手本から飛躍して、芸術的香気が高く精神陶冶、訓練を志向したものでありました。

#### ④ 国民学校時代 芸能科習字の時代

国民学校令では、それまで国語科の中で行われていた「書き方」が分離し、芸能科の中に取り入れ「芸能科習字」になりました。皇国民養成のための「修練」が科目の目的でしたが、毛筆による教育の存在意義が認識され開花した時代でもありました。

国定教科書の筆者は井上桂園になって、児童に学びやすく教師に教えやすい穏健中正なものとなりました。

#### ⑤ 戦後

昭和 22 年に教育基本法が制定され、指導者の手引きとして作成された指導要領は、やがて法令化され戦後の日本の教育の基準となり、何度かの改正もされ日本の教育を方向づけていきます。

##### ・昭和 22 年～25 年

小学校の毛筆が正課から除外され硬筆による書き方が中心になり、書き方は、国語の一部として位置づけられました。

毛筆習字は中学以上で行うこととなりました。

##### ・昭和 26 年～32 年

小学校における毛筆習字の廃止が反発をかって毛筆習字復活運動が起こり、昭和 26 年から小学校において 4 年以上が学校選抜という形で復活しました。

中学においては、国語科の中に含まれ、習字という名称は除外されました。

##### ・昭和 33 年～42 年

硬筆を「書き方」、毛筆を「習字」と呼んでいましたが、書き方と習字をあわせて「書写」と呼ぶようになりました。

##### ・昭和 43 年～51 年

小学校では、毛筆習字が 3 年以上で必修となり、中学では、2 年に書写の時間が決められるなど、書写・書道の位置が確立しました。

##### ・昭和 52 年～

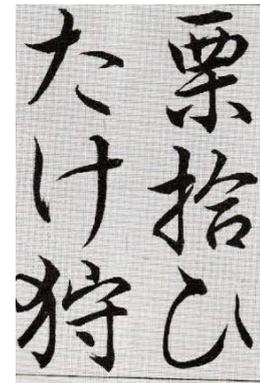
経済の高度成長下において、ゆとりのある豊かな人間性、調和のとれた人間教育にとって、書写・書道教育はこのことに役立つ重要性を持つものと思われるようになりました。

##### ・平成 23 年～

小野小学校は、文部科学省より教育課程特別校に指定され、「書道科」として書写教育が実践されています。

##### ・平成 28 年～

春日井市内 37 校の小学校で、1 年から毛筆で「書道科」の学習を行うようになりました。



鈴木翠軒筆国定第四期本



井上桂園筆国定第五期本

参考 五十年のあゆみ(県下児童生徒席上揮毫大会)から

#### 【参考】 「書道」が登録無形文化財として初めて登録される

令和 3 年 6 月、文化財保護法が改正され、新しく無形文化財の登録という制度ができました。登録無形文化財の分野として、「芸能」と「工芸技術」に加えて、「生活文化」(茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化)について新設し、「書道」と「伝統的造り」が登録無形文化財として初めて登録されました。

書道は漢字の伝来以来、中国の優れた書から技法を吸収し、平安中期以降に日本独特の表現が生まれ、和歌文化とともに仮名の書が発展。広く生活に浸透し、歴史上の意義があり芸術上の価値が高いと評価されました。

技術継承に取り組む保持団体には、「日本書道文化協会-東京都港区」が認定されました。

(6) 平安朝行列初年度 第9回春日井まつり 昭和60年10月20日

春日井まつりは昭和52年から始まりましたが、春日井まつりの呼び物「小野道風平安朝行列」は、昭和60年(第9回)から始まりました。

三蹟は第1回ということもあって松河戸の人たちになり、主役の道風には岡島喜久雄さん、佐理には長谷川優さん、行成には小川和義さん、小町は公募の吉田さんが務めました。



「三蹟」と「婦人会」の皆さん



「三蹟と小町」のパレード



「子ども会」の皆さん



三蹟と小町の皆さん



「子ども会」のパレード



「神楽会」のパレード



## (7) 小野社の移転

### ① 小野小学校の奉安殿の小野社への移転

現在の小野社の社殿は、昭和15年5月に建てられた小野小学校の御真影の奉安殿でした。

国家神道と学校の分離を求める占領軍の指示により、終戦後、撤去するように命令されましたが、総檜造りで他に類のない立派なもので、取壊すにはしのびずそのままの姿で、「道風屋敷跡」といわれている現在の場所へ社殿として移しました。

後援会、先生方、地元の人達で、屋根瓦を下ろし、牛車で運搬しました。

区画整理に伴い、新小野社は正面を南から東に向きを変えました。

小野社正面の屋根の妻の部分に、今でも小野小学校の校章が付いています。



社殿が来る前

小野社の棟札 昭和21年10月 安藤直太郎氏 誌

**表**

か、工事の由緒は詳らかにされていないため

な記載されているが戦後に間にさ

れたものである。施主、施工主、区役員

公宅社所在地に遷座するとき記さ

棟札は小野社を白山社の境内社から道風

注



表

裏



(昭和8年1月制定)  
鳥居松村の松をバックに「小野」を図案化したもので上桑出身の林蔵三氏の考案により作られた。

屋根の妻の部分に、小野小学校の校章が付いている。



旧小野社



現在の小野社

昭和二十一年十月十三日	春日井市大字八幡住	後學 安藤篠郁誌之 印	ラレ本年八月二十日	三十一日	此地ニ遷生セラレテ	メ堂宇ヲ建立ス道風公ハ宇多天皇寛平六年ニ	ヲ舊地宅社之碑所在地ニ遷座シ全ク舊觀ヲ改	今日ニ至ル昭和廿一年十月十三日ヲトシ當社	當リ小野社モ亦同社境内社トシテ移祀セラレ	碑ヲ建立ス現存燈籠一基並碑ハ山社ニ合祀スルニ	ノタリ文化十二年尾張藩儒秦鼎祠傍ニ宅社之	八幡社境内ニ在リ之レ尾張名所園繪所載ノモ	當社往昔ヨリ此地ニ存シ	小野社ハ正四位下内藤權頭小野道風公ヲ祀ル
-------------	-----------	-------------	-----------	------	-----------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	-------------	----------------------

### 小野社の棟札

#### 裏

### 小野小学校の奉安殿

「教育勅語」の謄本と、天皇・皇后の公式肖像写真「御真影」は、学校にとって最も貴重なシンボルとされていた。

火災を避けて校門近くの特別な倉庫「奉安殿」に納められ、子ども達はそれに向かって最敬礼することが義務づけられた。

昭和4年、現在の場所への学校の移転に伴い、昭和6年に鉄筋の奉安殿が建てられた。

その後、国家神道主義の影響から、昭和15年5月に、この神社造りの奉安殿が建て替えられた。

## ② 移転に伴う問題

区画整理により、道風生誕地といわれる小野社は道風公園内となり、その土地は、白山神社から市の管理する公園の土地となりました。

そこで、市から公園内の小野社の祭神を移すよう指示(政教分離の分離の考えから)があり、松河戸としては、この小野社に御神体が無くなるのを拒みましたが、御神体は白山神社の境内社である小野社の祠に移されることとなりました。

そして、その土地の上に建つ小野社の所有権について、平成22年5月10日に神社、遺跡保存会、区会三者で協議した結果、小野社の社殿(元小野小学校の奉安殿)や、石碑、木々については松河戸区が所有し、遺跡保存会が維持管理することとなりました。

(平成22年3月10日の3団体会議 区長、氏子総代長、遺跡保存会会長にて)

## ③ 区画整理に伴う小野社の移転工事(平成22年11月3日～平成23年8月28日)

平成22年11月3日、旧小野社から白山神社へ御神体の移送を終え、11月6日地鎮祭が行われました。これから小野社神殿の移転が始まります。

それから8か月後の23年7月16日工事が無事終了し、8月28日竣工式が行われました。



参考資料  
小野道風公遺跡 保存と顕彰のあゆみ  
写真と図表で見る松河戸

松河戸誌研究会  
松河戸誌研究会

松河戸文化科学探求隊  
隊長 長谷川 浩  
080-3657-7052  
松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>